

論文要旨

「未就学児を持つ母親の ICT 利用と生活充実感—日本と韓国・米国・スウェーデンとの比較から—」

岡村利恵

20 世紀の終わり頃から情報通信技術に大きな革新が起こり、生活上のあらゆるものの電子化、ネットワーク化が進んだ。近年では高度情報化社会がさらに進化し、情報へのアクセスやコミュニケーションのあり方にも大きな影響を与えている。関連して 2010 年代のスマートフォンやタブレットの急速な普及は、それまでの育児の光景を大きく変えつつある（岡村 2017）。便利で様々な使い方ができるスマートフォンやタブレットは、ビジネスや教育、家庭生活には欠かせない社会的ツールになりつつあるものの、子育てにおける ICT 利用には「スマホネグレクト」や子どもに何か悪い影響があるのではないかなど批判的な風潮が見受けられる。しかし、育児をとりまく環境に目を向けると、未就学児を持つ母親は、行動や時間という側面での制約があり、ICT を用いることでそうした制約を緩和できる可能性がある。子育てにおける ICT 利用は現代の子育て世帯が抱える育児資源の乏しさを補完しうるのではないか。子育てにスマートフォンやタブレットを用いることは、今日的な事象であるものの、それらの背景には家族社会学が蓄積を重ねてきた育児規範や育児の閉塞感、育児資源などの文脈が存在していると考えられる。そこで本研究では、子育てにおける ICT 利用を通じて、現代の母親をとりまく育児環境に着目する。

本研究の目的は母親が子育てにおいてどのように ICT を使っているのかを明らかにし、またそのことが母親を取り巻く育児資源や育児規範、そして母親の役割適応及び生活充実感にどのように関連しているのかを示すことである。これら様相を浮かび上がらせるために、ICT の社会的浸透、家族関係やジェンダー意識にそれぞれ特徴のある韓国、米国、スウェーデンとの国際比較を試みた。調査対象者は各国の未就学児と同居する 20～49 歳までの母親である。

本研究では各国のデータを用いて大きく分けて 2 つの分析を行った。はじめに子育てにおける ICT 利用に対する母親の考えがどのような要因に影響を受けているのか、子どもの利用状況を中心とした重回帰分析を行った。次に、友人や親との紐帯など母親の育児資源の影響を考慮しながら子育てにおける ICT 利用がどのような要因に影響を受けており、またそれらが母親の役割適応や生活充実感にどのような影響を及ぼすのか、多母集団同時分析から明らかにすることを試みた。いずれの分析においても分析モデルは、家族システム理論、社会関係資本理論、Diffusion of Innovation 理論、そして関連する先行研究

に基づくものである。

分析の結果、まずは記述統計によって、日本では母親の「子どものネット依存が心配」であるという考えが強いこと、子育てにおける ICT 利用が相対的に少ないことを確認した。また 4 ヶ国を通じて、母親が子どもとゲームやアプリで一緒に遊ぶことと母親が子どもに動画や映像を見させることは「子どものネット依存が心配」という母親の考えに異なる効果を示していた。「ゲームやアプリで一緒に遊ぶ」はそこに生じる親子のインタラクションが母親の評価の機会となり、そのことが母親の「子どものネット依存が心配」という考えを低減させている可能性が考えられた。そして「動画や映像を見させる」はそこに生じる子どもの相手をしてやっていないという母親の抵抗感が「子どものネット依存が心配」という考えを高めている可能性が考えられた。このことは日本、米国、スウェーデンで伝統的性別役割意識が高い母親ほど「子どものネット依存が心配」という考えが高まるという結果とも関連していると思われる。母親の伝統的性別役割意識と子どもに ICT を利用させるということが異なる価値同士であることが顕現した結果であると考えられる。

また、全ての国において、育児困難は、子どもの ICT 利用頻度もしくは子育てのための母親の ICT 利用頻度を高めていた。具体的には、子育てに関する情報検索を中心とした母親の利用と、動画の視聴やゲームなどを中心とした子どもの利用という、育児困難によって異なる 2 つの側面での利用頻度が高まることを確認した。子育てにおける ICT 利用は周囲に問題解決の手立てとなる支援があるかを探索することを指す **support seeking** のひとつの形であると指摘できる。ただし、全ての国において母親役割適応や生活充実感に対して、これら子育てにおける ICT 利用は統計的に有意な影響を与えておらず、父親の育児への関わり、親や友人との紐帯が母親役割適応や生活充実感を高めていた。母親のウェル・ビーイングにとっては、周囲の人々から得るサポートが子育てにおける ICT 利用よりも重要であることがわかった。また、父親の育児への関わり、親や友人との紐帯は、子育てにおける ICT 利用も促す効果を持つ。子育てを分かち合える存在が母親役割適応や生活充実感に直接の影響を与えるとともに、母親の育児への積極性を高め、よりよい子育てのための ICT を通じた **support seeking** を促すことがわかった。